

ワークショップ 12

「食道胃接合部疾患の研究と診療の進歩」

司会 伊東 文生（聖マリアンナ医科大学消化器・肝臓内科）

馬場 秀夫（熊本大学大学院生命科学研究部消化器外科学）

食道胃接合部は消化管の中では特殊な領域であり、様々な疾患が発生しうる。粘膜上皮は扁平上皮から円柱上皮と変わり、また、胃酸逆流を防止するための下部食道括約筋が存在する。また陰圧環境の胸腔と陽圧環境の腹腔の境界に位置している。悪性腫瘍としては、扁平上皮癌、バレットも含めた腺癌などが発生しうるし、良性疾患としても逆流性食道炎、ヘルニア、アカラシアなどが通常診療ではよく遭遇するものである。これまで先人の尽力により、病因、診断方法、治療方法など進歩を遂げてきていることは間違いないが、まだまだ未解決の課題も多い。本ワークショップでは、最先端の研究を紹介していただき、それをどのようにして診療に結び付けていくか議論していただくことを期待したい。